



一 小説の言葉・詩の言葉 —文学国語へのいざない

夜中の汽笛にうつついて、
あるいは物語の効用について……村上春樹
詩はいつでも近づいてくるのである……蜂飼耳

「物語」が生まれる場面を描写した村上春樹の短い文章から、文学の世界へ導入します。

二 小説(一)

山月記……中島敦
少年という名前のメカ……松田青子

学びを広げる 小説を書き換える **書くこと**

三 詩歌

今日……谷川俊太郎
わたしを束ねないで……新川和江
帰途……田村隆一

木に花咲き——短歌十五首

学びを広げる 短歌を創作する **書くこと**

表わら帽子のへこみ

穂村弘

四 小説(二)

ひよこの眼……山田詠美
神様……川上弘美

学びを広げる 書評 **読むこと**

今はもうないもの光

堀江敏幸

五 翻案

ありとぎりぎりす……佐野洋子

(参考) セミとアリ

学びを広げる 翻案作品をつくる **書くこと**

姨捨

大和物語

イソップ物語の翻案作品から、時代やジャンルをまたいだ作品同士のつながりを学びます。

六 戯曲の言葉

戯曲の中の「対話」……対談 井上ひさし／平田オリザ
(参考) 平田オリザ『東京ノート』より

戯曲 書く女(抄)

学びを広げる 戯曲 **読むこと**

永井愛

七 小説(三)

こころ……夏目漱石
捨てない女……多和田葉子

学びを広げる 小説の表現／映画の表現 **読むこと**

八 評論

文学の仕事……加藤周一
お砂糖とスパイスと爆発的な何か……北村紗衣
小説はどう読めばいいのか？……阿部公彦

——太宰治『斜陽』の語り口

学びを広げる 批評 **読むこと**

コミュニケーション教育にもつながる戯曲の言葉の学びについて、単元を設けました。



一 読むこと・書くこと・語ること ——文学国語の広がり

本を読むと路に迷う…… 朝吹真理子
 想像し物語ること…… 大江健三郎

第二部の導入には、読書から始まる世界の「広がり」を感じられる教材を配置しています。

二 小説(一)

ベル・エポック…… 絲山秋子
 鞆…… 安部公房

三 詩歌

永訣の朝…… 宮沢賢治
 ギリシア的抒情詩…… 西脇順三郎
 のちのおもひに…… 立原道造
 渡り鳥——俳句十五句…… 宇多田ヒカル論

——世界の無限と交わる歌…… 杉田俊介

四 文学の共同制作

連詩の愉しみ…… 大岡信
 ヤングの連句——半歌仙『赤城おろし』の巻…… 宇咲冬男

五 小説(二)

靴の話…… 大岡昇平
 夏の花…… 原民喜
 戦争の記憶…… 小川洋子
 死者の声を運ぶ小舟…… 読むこと

協働的な創作活動を通じて、文学に触れることの楽しさをさらに深めます。

六 翻訳の言葉

『雪国』の謎——夜の底とは何か…… 山本史郎
 涙の贈り物…… レベッカ・ブラウン／柴田元幸訳

七 小説(三)

檸檬…… 梶井基次郎
 舞姫…… 森鷗外

日本文学の外国語訳と外国文学の日本語訳の双方を学び、グローバル社会における翻訳の言葉について考えます。

八 評論

陰翳礼讃…… 谷崎潤一郎
 無常ということ…… 小林秀雄
 学びを広げる…… 文体 読むこと
 文体の持つ力…… 安藤宏

資料編

・読書の扉
 ・文学史年表

文学を読むために

語り手
 象徴と寓話
 筋(プロット)
 台詞と科白
 回想と手記
 詩と詞
 描写

広がる読書

エッセイ
 ミステリー
 SF小説
 翻訳小説
 歴史と文学